

令和5年5月分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和5年5月分について、輸出額は「自動車の部分品」などが減少したものの、「自動車」などが増加したことから、対前年同月比9.8%の増加となった。また、輸入額は「音響・映像機器〔含部品〕」などが増加したものの、「液化天然ガス」、「原粗油」、「有機化合物」などが減少したことから、同9.7%の減少となった。

その結果、差引額は5,373億円（同40.9%の増加）となった。

注）本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同月比による
また、★印は名古屋港において全ての月を通じて過去最高を示す（1979年1月以降のデータを基礎として比較）

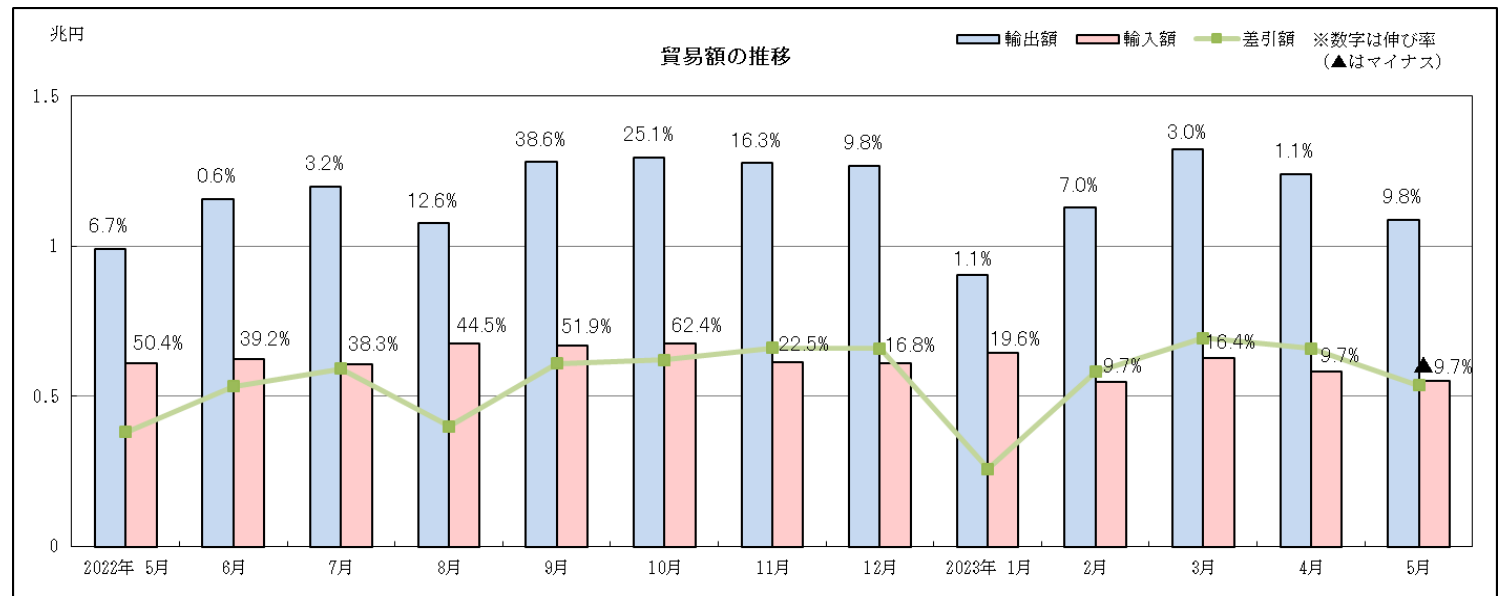
○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	1兆0,893億円	+9.8%	5,520億円	▲9.7%	5,373億円	+40.9%
	19ヵ月連続の増加		28ヵ月ぶりの減少		3ヵ月ぶりの増加	
管内（名港シェア）	1兆7,164億円（63.5%）		1兆0,559億円（52.3%）		6,605億円（—）	
全国（名港シェア）	7兆2,926億円（14.9%）		8兆6,651億円（6.4%）		▲1兆3,725億円（—）	

注）名古屋港における差引額は、平成23年6月以降144ヵ月（12年）連続 全国港別（空港を含む）第1位

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出	（1）自動車	3,101億円	+51.7%	+10.6	10ヵ月連続の増加
	（1）自動車の部分品	1,499億円	▲6.2%	▲1.0	7ヵ月連続の減少
輸入	（1）音響・映像機器〔含部品〕	★ 168億円	+45.5%	+0.9	15ヵ月連続の増加
	（1）液化天然ガス	263億円	▲52.3%	▲4.7	2ヵ月連続の減少
	（2）原粗油	211億円	▲41.2%	▲2.4	14ヵ月ぶりの減少
	（3）有機化合物	101億円	▲49.2%	▲1.6	4ヵ月連続の減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。